



姫川出張所だより

Vol.3

～ The Report From HAKUBA ～

工事現場紹介

中股第3号砂防堰堤工事

本工事は、長野県北安曇郡小谷村地先において砂防堰堤を構築する工事ですが、現場までの道のりは、国道148号より新潟県糸魚川市の根知地区を通り抜けて現場まで至る事から、姫川出張所から最も遠い工事現場になります。

施工場所は急峻な地形に囲まれた「いかにも砂防工事の現場」なのですが、道なりに300m程下ると(中股第2号砂防堰堤袖)周囲の風景は一変します。なんと、海(日本海)がみえるのです。雲ひとつない快晴の日なら能登半島まで見渡す事が出来るのです。長野県にいるのに石川県が見えると思うと少しだけ得した気分になれるのは私だけでしょうか？

現場の話に戻ります。今回の工事は終始苦勞した現場となりました。まず、周囲の地山が施工位置に向けた斜面で、岩盤・地山共に不安定であることから、法面対策を行い本体工事に着手しました。途中、一部分の斜面で岩盤崩落や地山崩壊もありましたが、地山監視を強化し作業を行っていた事も、予兆を素早く察知し、現場内での事故を未然に防ぐ事が出来ました。

現場の最盛期には出水により被災しましたが、幸いにも人的被害はありませんでした。工期的にも、なんとか契約工期内に無事故で完成する事ができました。「手のかかる子供ほどかわいい」といいますが、「苦勞して完成した工事ほど嬉しい」ものです。縁があれば今後も砂防工事に携わっていければと思っております。



①現場状況。下流側から。いかにもといった砂防の工事現場ですね。

①一転、現場から300mほど下った所からの絶景。中心奥に能登半島があります。見えますか？



②上空からの現場状況。右側の白い部分が崩落対策。地山がもろい現場というところがうかがえます。



現場代理人 小池 善行

北股下流砂防堰堤改築工事

当現場は、松川上流域の左支川北股入沢を二股(南股と北股の合流点)から約5km上流に行った所にある昭和42年に完成した堰堤の改築工事です。今年度より改築工事に着手する箇所でしたので、現場までの工事用道路の造成が大変でした。やっと現場まで到達し施工開始も束の間、8月10日に本州を直撃した台風11号が出水の引き金となり被災。コンクリート打設のために掘削した本堤前面部が被害を受けました。また、堰堤本体の腹付け補強(堰堤前面部にコンクリートを増厚する補強)のため、高所作業も多く、いろいろと苦勞がありました。

しかし、その後も現場作業員全員の頑張りも有り、無事故で無事工事完成することが出来ました。

株式会社 相模組



③現場全景。向かって左側が今回の改築範囲。



現場代理人 平川 哲



④本体の腹付けコンクリート打設のため、型枠を組んでいましたが...

台風通過後



ブロック締切が一部被災被災箇所から流入

湛水

⑤台風通過後は大量の流水で打設予定箇所が土砂と流水で埋まりました。

小滝瀬野田砂防堰堤その2工事

日本初の世界ジオパークに認定された糸魚川ジオパークが新潟県糸魚川市小滝地区にあります。その中の24あるジオサイトの1つであるヒスイ峡から約1.5km下流に位置するのが本工事現場です。

そんな中、小滝瀬野田砂防堰堤事業はヒスイ峡、或いはアクセス道路など糸魚川の重要な観光施設を保全する意味で大切な事業だと感じています。ヒスイ峡に隣接する明星山は、約3億年前東南アジア付近の海底のサンゴ礁が移動してできた石灰岩の山と聞いています。現場内も石灰岩の転石が数多くありました。壮大な歴史とロマンのある場所で工事ができることはうらやまれる場所でお仕事ができているのかも知れませんが、もちろん当事者はそんな余裕はなかなか感じていませんが……。

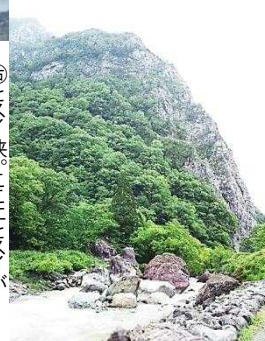
最後に、皆さんが気になることではないかと思いますが、『きれいなヒスイには……』お目にかかれませんでした。

ヒスイ峡は天然ヒスイの原石を見れる事からジオサイトの中でも人気のスポットとなっています。世界的に価値のあるヒスイ峡へ来年は皆さんも一度足を運んでみてください。

⑥現場全景。
⑦現場は巨大な転石が多数あり、堰堤構築の支障となります。重機で動かさない転石は時間をかけてこれらを壊していくのです。



⑧ヒスイ峡。ここにヒスイが！



監理技術者
榊原 伸一



葛葉上流3号床固工改築その2工事



当現場は新潟と長野の県境に位置し、姫川流域で発生した異常出水による洗堀の拡大を防止し、施設効果を復元するため既存の床固工を補強する工事です。

施工は昨年11月から行っており寒い時は氷点下10度を下回ることもありましたが、何と現場から温泉が……。そのおかげで作業員の心も体もポカポカ？でした。

現在工事も中盤を迎えようとしておりますが、今後も作業員一丸となって無事故で完工させたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

⑨現場全景、赤で囲った範囲を補強します。写真では見えませんが、兩岸には脆い岩肌が切り立っています。



現場代理人
富田 雄一

⑩温泉の温度は42度のあったかき。見てのとおり掛け流し温泉です。



出張所管内でのできごと

第16回工事安全対策研究発表会

2月4日、大町市にて工事安全対策研究発表会が行われました。この発表会は、国や県発注による砂防工事などの従事者が、各工事現場で取り組んだ安全対策を発表するもので、平成8年12月6日の蒲原沢土石流災害を契機に平成10年12月に開催してから、今回で17回目の発表会となります。

今年は国の直轄工事29編のほか、長野件の砂防工事から6編の契35編の論文が集まりました(姫川出張所の工事からは6編)。

この研究発表会を通じ、砂防工事の安全対策及び管理・創意工夫の情報共有がより活発になることで、将来の無事故・無災害に繋げることができれば、現場で知恵を絞ってきた技術者は冥利に尽きると思うのではないのでしょうか。



⑪受賞者の皆さん。写真ではわかりませんが、全員満面の笑みです。

⑫湯ノ入沢砂防堰堤改築その4工事 監理技術者の勝野氏の発表。

株式会社 後藤組

株式会社 笠原建設

編集後記

平成26年11月22日22時8分頃、白馬村を震源とする地震が発生しました。いわゆる長野県北部地震です。震度6弱を記録したこの地震により、小谷村・白馬村・長野市の各所において主要生活道路等のインフラ設備や多数の一般家屋などが被災しました。この地震で地域の生活に大きな影響を与えました。

さて、3月7日に信州大学と白馬村の共催で「地震緊急調査報告会」なるものが開催され、足を運んできました。

地震の発生源となった神城断層は活断層研究として有名な場所で、1970年代より研究がなされている箇所です。今回の地震で、白馬村大出地区から堀之内地区間の約9kmにわたり、地表に段差が発生したとのこと。規模がうかがえます。さらに！いろいろ書きたいことがたくさんありますが、スペースが無くなってきたので残念ながらここまで…。話は変わりますが、村内のスキー場へシーズン中は何回か行きました。場内は活気に溢れており、地震の影響はなさそうで安心しました。編集担当：岩佐